

## (一般質問)

笠原幸江 1 非常事態となっている系中いじめ事案について

開口一番、「いじめ防止に向け繰り返さないよう指導してまいります。」

と、いじめ事案があるたびに、

「申し訳ありません、残念です。」と、言い訳をしてきた学校と教育委員会の対応。誰一人として責任が問われないままに、また系魚川中学校で重大事態が1件明らかになった。未解決を含むと3件である。「君たちは仲間をいじめて楽しいですか。」と叫びたくなる。

私は、校内で発生した事案は、学校運営をしている校長の責任であると、一貫して訴え続けてまいりました。

不登校やいじめ防止に向けて、教育相談体制を強化し、ハートフル相談員、教育補助員に加えて、平成27年4月からスクールソーシャルワーカーを導入し、体制を整え取り組んでいるにもかかわらず、生徒に対しての「善悪」の指導が徹底されていない状況に憤りを感じています。

当市には、いじめ防止基本方針、いじめ防止条例、いじめ防止等の行動計画が施行されていることを、保護者や教職員に周知され活用されているのか甚だ疑問が残ります。

今回のいじめを起因とする重大事態は、傷害事件と捉えられる要素が潜んでいる非常事態であります。未解決事案を含め、新たな事案について、いじめ防止に取り組む姿勢を、以下の項目についてお伺いします。

(1) 非常事態となっているいじめ事案を含め「0歳から18歳までの子ども一貫教育方針で日本一の子どもを育てる」を標榜しているが、実効性のあるものにしていくために、教育長は、どのような意気込みで取り組まれるのか。

(2) 平成27年10月10日の謝罪会後の対応について

人事内申、市職員の処分はどのようになっているか。

いじめ防止条例に明記すべきと要望された内容について協議されたか。

義務教育課程終了後はどのように対応していくのか。

(3) 2月3日の保護者説明会について

1年生のいじめ事案の内容は、学校側の遅きに失したものであり、いじめ防止基本方針に反したものでないか。

生徒の喫煙は由々しきことであるが、その対応はどうか。

緊急総合教育会議を開き、講ずべき処置について協議されたか。

関係する機関の連携についてはどうか。

いじめ問題専門委員会の設置が急務と考えるがいかがか。

(4) 加害生徒の保護者の対応について

吉川慶一 1 系魚川市沿岸海域の変化と状況について

当市においては、農業、林業及び水産業は大切な産業であることに異論のないところと思いますが、いずれの分野においても、それぞれ様々な問題を抱えておるのが現状かと受け止めております。

「山を育てることは、海を育てること。」このような言葉を間々耳にしますが、この3者の間に互いに深い関わり合いがあるということの意味するものと思います。

最近、浜辺へ行くと「糸魚川の沿岸海域に異変が出てきている。」と心配をする声を耳にすることがあります。この変化について、行政は、その実態をどの程度に把握しておられるのでしょうか。また、それに対する何らかの対応策をお考えでしょうか。極めて重要なことと思われるのでお伺いします。

- (1) 農業・林業・水産業の現況と政策についてどうですか。
- (2) 特に水産業で新しい施策のお考えはありますか。
- (3) 沿岸表層の海水が疲弊してきています。山、河川、海、山林の現状に問題があると思います。現状についてお伺いします。
- (4) 陸と海を一体化した大型ジオラマが必要と思いますが、お考えを伺います。

## 2 北陸新幹線開業とその後の影響について

昨年3月に永年にわたる念願の北陸新幹線が開業しました。市民及び経済界とともに喜びに沸きましたが、果たして地域に影響、上昇変化が現れたでしょうか。駅舎は近代化され利便性が良くなり、特にジオステーションのキハ52の展示等で糸魚川市の魅力が現れています。

建物の面は素晴らしいですが、接客の面もどうでしょうか。今後、観光都市を目指すために、次のことについてお伺いします。

- (1) 新幹線が開業して、市内の商業はどのように変わりましたか。1年間のアンケート調査結果はまとめられましたか。
- (2) 開業時のイベントと開業1年後のイベントを主催し、市民ともに観光誘致が行われましたか。そこで、商工会議所・観光協会・商店街（団体等）はどのように観光の企画、連携をされましたか。また、糸魚川のおもてなしの企画はどこが主体となって企画されていますか。
- (3) 街づくりは街の人々と一緒に協力して盛り上げていかなければならないと考えますが、この企画によって経済効果はどのように現れていますか。
- (4) 糸魚川ジオパークは長い歳月をかけて宣伝し実行しています。行政が主体となっていると思いますが、コンサルタント業者に任せたらどうですか。

田原 実 1 地方でのクリエイターの先駆者、相馬御風先生の顕彰とまちづくりについて

今年2016年は、相馬御風先生が糸魚川に帰住（Uターン）して100年目の年です。

その帰住の理由には謎もあるとされていますが、ふるさと糸魚川の豊かな自然の中でひたむきに生きる人々に囲まれ、より人間らしく、そしてより自分らしく生きていきたい、という強い想いと決意があったのことで推察します。

以来100年が経過し、政治では地方創生が叫ばれ、地方への移住や創作活動を伴う暮らし方が日本全国の各所で実践され、注目を浴びています。

そこで、ずっと以前に糸魚川に帰り住み、時代の先端の創作活動に取り組み生業とした、いくなれば地方でのクリエイターの先駆者である相馬御風先生の功績を振り返り、その知恵や行動力を学ぶこと、御風先生を「知る、学ぶ、伝える」これからの糸魚川市の顕彰を考えること、そして糸魚川市が目指す翠の交流都市におけるまちづくり事業の展開、特に御風の生活空間であった糸魚川市大町の御風宅、糸魚川駅北口の商店街や料理店などを活用した交流人口増大を企てることが今回の質問の主旨です。

なお、テキストとして糸魚川市文化財保護審議会委員で御風会理事の金子善八郎先生の著書「相馬御風」平成17年発行図書と、相馬御風先生の著書「良寛さま」を新潟大学名誉教授清田（せいだ）文武先生の監修で復刻した「良寛さま」平成19年発行図書を資料に伺う点もあります。

(1) 過去10年の糸魚川市の相馬御風顕彰事業の主なものについて伺います。

平成19年より発行されていた歴史民俗資料館「相馬御風記念館」だよりについて

歴史民俗資料館企画展平成18年「良寛さまと相馬御風」、平成19年「相馬御風と早稲田」、平成20年「小川未明と相馬御風」、平成25年「相馬御風作詞校歌展 - 心のふるさと、われらが母校 -」、平成26年「相馬御風と芸術座 - カチューシャの唄を中心に -」、それぞれの成果、記録公開について

平成25年写真展「御風を訪ねた著名人たち」の成果、記録公開について

平成27年相馬御風ふるさと帰住・良寛研究百周年イベント「御風さんの、いろんなしごと」の成果、記録公開について

(2) 最近の市民の相馬御風顕彰事業の主なものについて伺います。

御風の作詞した代表曲を収めたCDの発売について

ミュージカル「オデュッセイア」の上演について

バタバタ茶の実演について

(3) 帰住（Uターン）100年目に当たる今年予定している相馬御風顕彰事業について伺います。

(4) 長年の課題であった相馬御風宅（新潟県指定史跡）のリノベーションについて伺います。

(5) 歴史民俗資料館の展示、プレゼンテーション、接客談話の工夫について

伺います。

- (6) 歴史民俗資料館に隣接する糸魚川市民図書館での展示、プレゼンテーションの工夫について伺います。
- (7) 糸魚川市役所庁舎での展示、プレゼンテーションの工夫について伺います。
- (8) 糸魚川駅自由通路、駅観光案内施設ジオパルでの展示、プレゼンテーションの工夫について伺います。
- (9) 北陸新幹線開業1周年記念イベント、新幹線で糸魚川へ来るお客様をターゲットとしたプレゼンテーションの工夫について伺います。
- (10) 交流人口増大、経済効果を目的とする、糸魚川駅周辺を「御風テーマパーク」あるいは「まるごと御風まぢめぐり」としての活用について伺います。
- (11) 相馬御風顕彰の方法を今日的な価値観で見直し、地域のすぐれた資源として活かすことは地方創生において糸魚川ならではの特色あるまちづくりの大きなテーマです。

今後は御風が校歌「都の西北」を作詞し、母校でもある早稲田大学との連携を強化し、また糸魚川市民の皆様の様々な思いが反映される「相馬御風をいかすまちづくり」のシステムをつくるべきと思いますが、この点について伺います。

+

保 坂 悟 1 一般廃棄物最終処分場問題の今後について

昨年末、一般廃棄物最終処分場適正化工事が完了しました。地元補償についてこれまでのものと、今後のものとを整理すべきと考えます。そこで、以下の各項目について、補償内容や今後の取組について伺います。

- (1) 水銀を含むばいじんを埋めた公害防止協定違反について
- (2) クローズド型（屋根付き）新最終処分場の地元補償について
- (3) 大野区民の善意を踏みにじった道義的責任について
- (4) 大野地区に対する補償内容一覧表の作成について

2 日本一の子どもづくりについて

(1) 子育て支援について

ブックスタート事業の目的と意義はどうか。

事故防止のためのチャイルドビジョンの取組状況はどうか。

ガン予防として中学生のピロリ菌検査導入はどうか。

今季の子どもインフルエンザ助成の効果はどうか。

病児保育の進捗状況はどうか。

学童保育の延長時間の検討結果はどうか。

(2) いじめ対策について

重大事案やその他の事案の進捗状況はどうか。

いじめ防止対策の強化はどうか。

いじめの被害者と加害者の追跡調査はどうか。

いじめ解決の定義はどうか。

(3) 子どもの基礎学力向上支援について

駅などに中高生向けの学習スペースの提供はどうか。

保護者向けに勉強癖がつくアドバイス集の提供はどうか。

新大学入試制度（2020年度）の対応についてはどうか。

教職員のOB・OGによる放課後先生制度の導入はどうか。

3 糸魚川市の魅力づくりについて

(1) 海洋高校の産官学連携事業の拡充について

高校生によるシーフードレストランの設置はどうか。

産官学金労言による起業教育システムの導入はどうか。

(2) 糸魚川白嶺高校の特色づくりについて

（仮称）白嶺高校存続研究会の設立はどうか。

新潟県との協議の進め方はどうか。

産官学連携事業の創設はどうか。

(3) 権現荘の意識改革について

直営ならでの取組はどうか。

外国人向けの日本文化体験プランの実施はどうか。

地域振興の使命は果たしているのか。その検証はどうか。

(4) 「住民立」の会社もしくは公社の設立研究について

住民ニーズと住民サービスを住民がコントロールする会社組織の構築を行うべきと思うがどうか。

高齢者を中心に身の丈のゆるい働き方を提唱してはどうか。

4 移住定住の促進策について

移住定住を促進するには住環境が大切です。そこで、生活者の視点から以下の点を伺います。

(1) 交通安全対策について

狭い道路におけるカーブミラー設置基準強化はどうか。

高齢者が転びにくい、歩道の段差解消と路面舗装の状況はどうか。

狭い道路の側溝のふたの設置状況はどうか。

降雪時の農業用水、流雪溝等の転落防止策はどうか。

(2) 人口減少に対応した財産管理対策について

空き家、墓地、耕作放棄地、山林等の管理者が市内にいない場合や高齢化のため管理できていない場合のために、「財産管理条例」の制定を行い、放置させないようにすべきと思いますがどうか。

(3) 廃墟、廃屋の管理対策について

廃墟や廃屋があることで、移住定住の決意が揺らぐおそれがあります。

そこで「廃墟・廃屋整理条例」の制定はどうか。

(4) ラジオ不受信地域の改善について

防災対策と生活の利便性向上策として、積極的に取り組むべきと考えるがどうか。また平成24年9月以降の改善状況はどうか。

伊藤 文博 1 内部監査体制と戦略的企画部門の強化による機能の高い組織の構築と、より高度な行政経営の実現について

合併当初から、業務執行面でのチェック体制強化によるPDCAサイクルの構築を提言してきました。その後、内部監査は行われるようになったものの、ミス防止主眼の監査に留まっており、本来の内部監査の機能を果たしているとは言えません。

内部監査は、組織機構とその運用、施策の無駄や不足をチェックし、より効率的で機能的な組織運営を継続的改善により導き出していくべきものです。

一方、企画部門は、市の政策全般に精通する中で、戦略的に持続可能なまちづくりを目指して企画立案していかなければなりませんし、戦略的思想があってこそ、継続的改善の必要性が生じ徹底されることとなります。

この両輪が機能してこそ、PDCAサイクルが高いレベルで廻ることになり、常により良い糸魚川市を追い求める行政経営が可能になると考えています。

庁内全体が同じ方向を向いてお互いに高め合っていく気運をつくり、また、庁内全体をそうしなければならない状況下に置くためには、機能の高い組織づくりが必要であります。

また、それ以前に職員の意識改革を図っていく必要があります。

「意識改革は熱伝導であり、熱源は市長である」と再三言ってきていますが、気運が高まってきている様子が一向に感じられません。

以上により、次の項目についてどのように考え、具体的な方策を講じていくのか伺います。

- (1) 内部監査（業務監査）体制の強化について
- (2) 戦略的企画部門の強化について
- (3) 職員の意識改革による継続的改善の徹底について

渡辺 重雄 1 合併10年、各種データやアンケートで見る市政の課題と対応について

合併から10年、今までは新市建設計画を基本にした総合計画のもと糸魚川市の一体感の醸成に力を入れた市政が展開されてきたと考えています。

この間、平成25年には市町合併の効果等の検証と課題把握として、中間評価の報告があり、その時点では「市町合併は、長期的な視点で行われたものであり、本来の効果が現れるまでには一定の期間を要することから、現時点で総括的な評価を行うには至っていない。」とのことでした。

ただ、現在、平成29年度からの第2次総合計画の策定にとりかかっており、今度の計画には合併の効果等の検証と課題把握を含め、10年間の総括を基本に据え、新たな夢のある計画が必要であります。

第2次総合計画の策定方針には、「社会経済環境と合併10年間の総括を踏まえて」、さらに、「その後の社会経済情勢の変化や新たな住民ニーズへの対応など、本市が抱える課題に的確に対応する」として、市民参画を基本に、全職員の創意と熱意により策定作業を行うということで、大いに期待しているところです。

そこで、今回は「合併10年、各種データやアンケートで見る市政の課題と対応について」、実際の数値や住民の声による市政へのかかわりに関し、どんな受け止め方をされ、第2次総合計画などに反映させていく考えであるか伺います。

(1) 市民アンケートで見える市民満足度などについて

過去3回にわたり総合計画の策定時に市民アンケートを実施し、これまでの取組を検証したり、市民の意識を確認していますが、市民満足度など住民の意向をどのように受け止め、今後反映させる考えか伺います。

(2) 第1次総合計画の目標指標、長期財政見通しから見える市政の進捗と第2次総合計画への対応について

総合計画の目標指標は達成度や効果をわかりやすく示すための「ものさし」であり、長期財政見通しは財政的視点から補完し、計画の実効性を高めるためのものと思いますが、第1次総合計画における目標指標、長期財政見通しから見える市政の進捗と第2次総合計画への対応について伺います。

(3) 「新潟県100の指標」で示された分野別の市勢に関する受け止め方について

新潟県では、人口、経済、福祉、教育や財政など各分野から選んだ100項目について、県内における市町村の順位を掲載し、生活や社会に関連する様々なデータを提供していますが、毎年のデータをどのように受け止め活かしているか伺います。

五十嵐 健一郎 1 地域医療体制の充実について

以下の項目について現状・分析・課題及び今後の取組と将来の方向性について伺います。

- (1) 医療施設等設備整備について
- (2) 救急医療体制について
- (3) 医師確保対策について
- (4) プロジェクトチーム医療の設置について
- (5) 糸魚川地域のドクターヘリ運航事業について

- (6) I I S A 通訳（医療）の充実について
- 2 交流いきいき産業のまちづくりについて伺います。
  - (1) ものづくりに携わる人材育成の推進及び優遇制度の調査・検討について
  - (2) 企業支援室の成果及び糸魚川産業振興センター（I t o - B i z）の創設について
  - (3) 職業訓練校の充実及び経営者育成学校の創設について
  - (4) 企業の地方拠点強化策及び県やN I C O（にいがた産業創造機構）との連携について
  - (5) クラウドソーシング導入・在宅ワーク推進及びテレワークによる働き方改革について
  - (6) ジオパーク資源等を活用したD M O 観光地域づくりについて

古 畑 浩 一 1 新幹線時代に対応したまちづくりの推進について

- (1) 新幹線開業を見据えて、長年協議されてきた駅周辺整備計画ですが、北口の空き店舗対策、南口の空き家対策についてなど、いまだ具体的な方針が示されていない。
 

新幹線時代に対応したまちづくりを今後、どのように進めていくのかお聞かせいただきたい。
- (2) 駅南地区の都市再整備を図るべきと考えるがいかがか。
- (3) 中央区地内のJ R 社宅が取り壊され、宅地とする計画案が示されていると聞かすが、市として有効利用するお考えがあるかお聞かせください。
- (4) 来年度の組織改編に伴い新設される仮称計画交通係の役割とは何かお聞かせください。

2 人口減対策事業について

- (1) 2 8 年度予算編成に当たり重点施策として人口減対策を掲げ「具体的に実数を上げる方向で目標をしっかりと定めたい」としているが、具体的な内容、目標とする実数とは何かお答えください。
- (2) 夢を叶えて、若者や女性が輝くまちづくりを実現するための具体的な施策について

持続可能なまちづくりを推進するためには、女性の地位向上、就労条件の改善、子育て支援の拡充が不可欠。

若者の市外流出を食い止めるには、就職・男女の出会い・安定した収入・遊び場が不可欠。環境をどう改善できるか、危機感を持って取り組むべきであると思うがどうか。

(3) 地域活性化とコンパクトシティの推進について

糸魚川の半数以上の地域が限界集落となり、集落運営の危機であり、過疎高齢地域の活性化推進と維持困難な集落の集団移転、コンパクトシティへの取組は、複雑な要因が絡み合い実現は困難と思えるが、避けては通れ



ない道である。

実態調査と集団移転について検討すべきと考えるがいかがか。

### 3 公立高校再編計画と魅力ある学科について

#### (1) 高校の魅力づくりについて

地域の未来を支える若者の定着は最も力を入れるべき事業です。

白嶺高校の学級減問題でも指摘してきましたが、地元高校への進学率の低下は由々しき事態であり危機感を感じるものです。

学級減が決定し、県教委の高校再編方針が発表された今、糸魚川市として早急なる対策を講じる必要があると考えます。

一般的に魅力ある高校とは、学力水準が高く、国立・有名私立大学への入学が可能であること。文化・スポーツ活動が盛んで、才能を伸ばし全国大会やインターハイ、甲子園などの出場が夢ではない環境と指導者がいること。学業以外の専門知識や資格を習得することが可能で、就職に有利になることなどが挙げられますが、市当局として、魅力ある学校づくりとは何か、またどのように進めていくのかお聞かせください。

#### (2) 新潟県教育委員会は、高校再編成をどのように進めていくのか。市内高校の統廃合はあるのか。年次計画はどのようになっているのか。お聞かせください。

#### (3) 県の計画に対して地元の意向は、どの程度反映されるのかお答えください。

+

+

### 新保峰孝 1 産業振興策について

#### (1) 糸魚川市の産業構造について、どのように認識しているか。

#### (2) 糸魚川市の産業資源の特徴について、どのように捉えているか。

#### (3) 当市の産業発展の方向をどのように考えているか。

#### (4) 中小企業振興条例を制定し、起業、中小企業振興の強化を図るべきではないか。また、1次産業等も含めた幅広い起業支援の強化を図るべきではないか。

#### (5) 糸魚川高等職業訓練校とハローワークとの連携はどのようになっているか。求人に合致した求職者訓練が行われているか。

#### (6) 地域振興財団、農業振興公社等、行政とは別の地域振興、産業振興の組織、団体をつくることにより、地域産業の振興に弾力的に取り組めるようになると思うが、どうか。

### 2 市独自の経済対策について

#### (1) 地域経済の現況をどのように捉えているか。

#### (2) 市独自の経済対策について、どのような考え方で取り組んでいるか。

#### (3) 雇用、仕事づくり等の直接的効果を求めるものと、誘客面での間接的効果を期待するもの等あると思うが、波及効果も含めどのように考え取り組

んでいるか。

- (4) 遺跡発掘調査のような、直接的雇用の取組も必要ではないか。
- (5) 商店等のリフォーム助成を、仕事づくりと誘客効果を高める面も含めて検討したらどうか。

### 3 新幹線騒音対策について

- (1) 北陸新幹線の騒音、振動被害はいつ頃までに解決される見通しか。
- (2) 騒音、振動の解決策について、関係住民の方たちとの話し合いはどのようになっているか。
- (3) 騒音、振動を解決するには、根本的にはトンネル内の空気圧を下げるしかないのではないか。車両をより流線形にしてスピードを落とすか、トンネルの途中に空気を抜く穴を開け風圧を下げるしか方法はないと思うがどうか。
- (4) それができないのであれば、被害の大きい住民の方々には家屋移転等を含めた交渉をして了解を得られるような努力をするしかないのではないか。緩衝口を塞ぐ工事、明かり区間の吸音板の設置はどうなったか。JRの対応はどうか。

### 4 並行在来線（えちごトキめき鉄道）等の利便性向上について

- (1) ダイヤ改正も含め、えちごトキめき鉄道の利便性の向上を図る取組についてはどのようになっているか。
- (2) 新駅設置についてはどうか。
- (3) JRの旧駐車場用地の所有はどのようになっているか。新幹線と大系線、日本海ひすいラインにおける利用者の駐車場無料サービスの考え方についてお聞きしたい。

+

## 田 中 立 一 1 起業・創業支援について

人口が減少し、経済の右肩上がりが見込めない現在、国は経済成長の発展に女性や若者の起業家が活躍できることが重要であり、その環境を整備しなければならないとし、地方では国の支援事業を受け、地域経済の活性化を担い、更に移住促進にも期待できるとして起業・創業の支援に力を入れる自治体が増えていますことから、糸魚川市の起業・創業支援について伺います。

- (1) 昨年国から認定された「創業支援事業計画」の取組状況について
  - (2) 空き家、空き店舗、空き公共施設の活用とそれらを利用したインキュベーション型などの「シェアオフィス」整備の検討について
  - (3) 1次産業の新規就業状況と製造・加工及び販売の創業について
- ### 2 北陸新幹線、高速道路、国道の騒音等環境問題について伺います。
- (1) 北陸新幹線沿線の騒音・振動の現在の対応状況について
  - (2) 市内国道及び高速道路の騒音等環境問題の現状について
- ### 3 北陸新幹線糸魚川駅とえちごトキめき鉄道の利用状況と今後の利用促進策

について

(1) 間もなく開業1年を迎える北陸新幹線の利用状況は、JR西日本によれば、開業から今年1月末までに乗客は前年のおよそ3倍に伸び、観光客の増加が大きな要因と報道にありました。

上越妙高駅 糸魚川駅間での乗車人員はおよそ836万人、1日平均26,000人だったそうで当初予想を上回り好調と聞きますが、糸魚川駅の利用と経済波及効果は薄いとの声が多く聞かれることから、市の認識と対応について伺います。

(2) 同じく開業1年を迎えるえちごトキめき鉄道について伺います。

ダイヤ改正による朝夕の混雑解消について

リゾート列車、イベント列車、サイクルトレインの運行予定について

## 大 滝 豊 1 幼保・小中学校再編計画の方針について

全国的に出生者数が減少し少子高齢化が進んでおり、当市においても園児や児童・生徒数が減少し、周辺部では保育園や小・中学校の小規模化が進んでおります。

合併時の国勢調査では、糸魚川地域30,277人、能生地域10,078人、青海地域9,489人の49,844人であり、平成22年の国勢調査では、糸魚川地域29,371人、能生地域9,317人、青海地域9,014人の47,702人と2,142人減少しております。また高齢化率は30.85%から32.96%と増加し、全国平均の23.0%、県平均の26.3%を大きく上回る高齢化率となっております。

昨年10月に国勢調査が行われ、当市の人口は44,161人と人口は更に減少し、少子化が進み高齢化率は36.8%と高くなっております。

このような状況を踏まえて、10年先・20年先に子どもたちがより良い環境の中で、効果的な教育が受けられる幼保・小中学校の再編成が必要であると考えます。市としての基本的な考え方をお伺いいたします。

(1) 再編計画の方針の策定について

(2) 出生者数と就学前及び小学校児童数の推移について

(3) 市内の保育園・幼稚園の経緯と変遷について

(4) 保育園・幼稚園の現状と課題、今後の方向性について

(5) 市内の小学校・中学校の経緯と変遷について

(6) 小学校・中学校の現状と課題、今後の方向性について

## 古 川 昇 1 介護・地域支援事業について

地域包括支援システムが2012年に創設されて3年、本格的に構築する改革が始まりました。高齢化の進む中で医療・介護の将来像をどう描くのか。介護が必要になったとしても住み慣れた地域で最期まで暮らし続けるために、

在宅介護・医療の充実と連携推進、施設の重点化が図られました。社会保障費は増加の一途をたどり、介護費は著しい伸びを示しています。介護保険制度維持、負担の公平性から痛みを伴う改革となっています。以下伺います。

#### (1) 施設介護について

施設介護は昨年より入居制限ができ、要介護3以上の高齢者に限定し、在宅での生活が困難な中重度者を支える施設として機能の重点化を実施、また、自治体の関与のもと特例で軽度者も認めています。軽度者の施設申込みで、決定までの経過はどのようになりますか。

特養入所希望者が400人を超えている現状で、今後の施設拡大の考えはありますか。

今後、特養において医療ニーズの高い入所者が増えることにより、看取りへの対応が課題と予想されますが、夜間・緊急時の看護体制や医療提供のあり方をどうお考えですか。

特養では胃ろうによる栄養管理や痰の吸引等、医療的ケアが他の施設より多いと聞きますが、人的配置や勤務体制はどのように把握されていますか。

介護家族・施設入所者家族に対するフォローや心身のケアについて、寄り添う対応・相談窓口はどのように行われていますか。

認知症の施策について、医療・介護・行政・家族など、それぞれの取組や関わりがどのように展開されているのか。また、課題は把握されているのか現状をお聞きます。

介護人材確保支援への問合せや申込みの現状と、中学生・高校生に介護職への関心を高める取組はどうか伺います。

#### (2) 地域支援事業について

地域支援事業見直しの中で、新しい「介護予防・日常生活支援総合事業」は、従来の機能回復訓練など高齢者本人への関わりだけではなく、地域づくりなどの高齢者本人を取り巻く環境への関わりを含めた対応であると思いますがどうお考えですか。

要支援者のうち、現行相当移行者は決定と聞きましたが、予防給付対象として本人希望が保障されて残ることができるのですか。

全国一律の人員・設備・運営基準から市が定める基準に変更され、専門性を問わない雇用に置き換えられる訪問・通所サービスA型は問題が大きいと思いますが、実施するお考えですか。

また、B型のサービスについて、現在の考えはありますか。

一次予防事業・二次予防事業の区別をなくして一般介護予防事業と介護予防・生活支援サービス事業の2つに再編されるとのことですが、対象者の把握事業はどこで担うのですか。

包括的支援事業の中で、地域包括支援センターは運営する以外に大き

く機能強化を図るとあるが、内容はどうなるのですか。

また、人員配置も大事で、地域包括ケアシステムの実現に向けての役割はどうか伺います。

生活支援サービスの充実、基盤整備において、生活支援コーディネーターの研修や協議体を立ち上げて開始と記されていますが、取組経過を伺います。

吉岡 静夫 1 45,000人市民、弱い「ひとり」を主役に。

3月定例会、45,000人市民一人ひとりのくらしや安全・安心につながる平成28年度予算約500億円近い私たちの血税の使い道を考え、きめる議会であります。

時を同じうして、「一億総活躍社会」「地方創生」のかけ声かけが行われ、当系魚川市にとどまらず、全国の各自治体、まさに「乗り遅れてはならじ」とばかりの勢いで策定したのが「まち・ひと・しごと創生、総合戦略」であり、「まち・ひと・しごと創生、人口ビジョン」。

しかし、一方、それらの動きとはまるで離れたような社会現象が私たちの身のまわりで問題視されていることもまぎれもない事実です。

こどもの貧困、単身老人の激増・貧困、非正規労働者の激増・貧困、そして一方では「東京圏への人口集中加速」の大見出しが新聞紙面トップを飾るという現実。「下流老人」や「地方消滅」は、それこそことば遊びやゴロ合わせの世界ではなくなっているのです。

そこで、今回、時期が時期ということを選んで、あえて基本的・足元・根っこの問題としてお伺いさせていただきます。

(1) 先人・先輩の教えを行政に活かそう。

思想家・山本七平は、「『空気』の研究」のなかでこう言っています。

「『空気』を読む」ことは、「右ならえ」「みんなで渡れば」に通ずる。一方、「『水』をさす」のことばもある。これは、「空気、右、みんな」の動きや流れに抗したりモノ言おうとする者に対して、これを封じ込めるときの殺し文句にもなる。マスメディアなど、社会現象に関わり、チェック機能を果たそうとする場合、ことさらそんな流れに流されないようにしなければならない。

マスメディアに限らず、私は、代議制によっている議会制民主主義のもとでの行政・政治の世界、まったくそのとおりに思うのです。

さらに、いま一例。作家の辺見庸は、こんなことを言っています。

「(何かあったとき)それは違うんじゃないかって執拗に言い張ると『困ったちゃん』みたいに扱われる。そんな冷笑や馬鹿にすることがどれだけ組織や社会を悪くしていくことでしょうか。おずおずとした発言でいい、かっこ悪くぶつぶつでいい、どれだけ誠実でいられるか」

まったくそのとおり。いまひとつ、過日の朝日川柳にこうありました。

「『反対』に、対案出せと無理を言う」

まさに山本・辺見両氏の言われるように「これはオカシイ」と声をあげようとするときに、これを封じ込むのに効果的なやり方のひとつが「対案出せ」のフレーズです。

一年分の当初予算案を粗上に乗せ、それぞれ一人ひとりがモノ言う場でもあるので、基本的な、足元の、根っこの問題として取りあげました。

以上、私の考え方に対して、市長、どうお考えですか、お伺いします。

(2) 「総活躍」「創生」とは。

いま、流れは、少なくとも「官・オカミ」の世界では「一億総活躍」「地方創生」です。各自治体、そんな流れのなかで「乗り遅れてはならじ」「負けてはならじ」で「戦略」「ビジョン」策定へ。

が、その足元には「下流老人」「こどもの貧困」「非正規労働者の貧困」があります。零細企業の廃業は年間3万件に迫る勢いです。「地方消滅」のフレーズも叫ばれて久しいものがあります。

「水をさす」と言われるかも知れません。でも、せめて「ぶつぶつ」でもいい、「勝ち行く」から「弱い一人ひとり」へカジを切っていくべきです。

このことについてどう考えますか。お伺いします。

(3) 具体例のいくつかを。

「ジオパーク」、「新幹線」

「28年度当初予算のポイント」冒頭で「ジオパーク」と「新幹線」を掲げています。まさに「『ジオパーク』なんだぞ、『新幹線』なんだぞ」のかけ声で「こんなにすばらしいものなんだから」の空気づくりに急、と見てとっている市民も多いのです。

それでは「ジオパーク」、かつて指摘した東京事務所の扱いはその後どうなっているのでしょうか。今後どうすべきが適正なのでしょう。か。「新幹線」がらみでは、在来線対応の現状はどうなっているのでしょうか。かつて取り上げた梶屋敷・親不知・市振各駅の便所は住民・利用者に近くなりました。が、ほかの面でのコミュニケーションはうまくいっているのでしょうか。

桂・工場用地

「地域開発」「雇用拡大」。どちらも大義はありました。が、その後どうなっているのか。一連のこれまでの動きに対する自戒・自省の構えに立って、現状を見すえたマニフェストづくりなども提唱してきたところ。です。

その後、どう取り組んできたか、取り組もうとされているか。

権現荘・温泉センター

リッパなかけ声かけや威勢の良さは結構。が、その陰でごくごくツツの市民一人ひとりの楽しみや生き方が軽んじられた好例が「温泉センター」の廃止。一方では「権現荘」への4億円近い巨費投入、さらには問題点を多く抱える「指定管理者制度」もあるのです。

姫川病院

「地方を、創生を」と叫ぶのなら、まずは足元からです。見直そうではありませんか、取り組もうではありませんか。

たとえば「行政代執行」などの適用の可否を考えるなど。そういった努力を重ねることこそが真の「地方創生」の足元を作っていく最大の力、責務ではないでしょうか。

以上、いくつかの具体例。それぞれどうお考えですか。お伺いします。

## 2 市政、「勝ち行く」よりも「弱いひとり」をこそ。

いまの市政、「勝ちさえ、強くさえ、カネさえ、力さえ、数さえ」に傾き過ぎではないでしょうか。たとえば一例として市の「広報」対応。いいことづくめが多すぎます。

もちろん、私たち、誰だって「強くなりたい、負けたくない、カネも力もあつたほうが良い」。でも、一人ひとりの私たち、そうはいかない。いつなんどき「弱さ」を抱え込むかも知れないのがこのシャバ。45,000人市民、みんなが強いわけにはいかないのがこのシャバ。

まずは「市政」、「強くさえ、勝ちさえ、カネさえ、力さえ、数さえ、勢いさえ」から「弱かるうが、負けようが、カネがなかるうが、力がなかるうが、数が少なかるうが、勢いがなかるうが」この地域に住んでいれば大事にされる、堂々と生きていける、生きがいを求めることができる。そんな「まちづくり」へ「市政」の足元を、根っこをもっていこうではありませんか。お伺いします。